

小児看護学Ⅱ実習

1) 実習施設 小児病棟・小児科外来

2) ねらい

子どもを成長・発達し続ける存在として捉え、さまざまな健康状態に応じた看護援助の方法を理解する。

さらに、子どもと家族を1つの単位として捉え、家族への援助の必要性を理解する。

3) 実習目標と到達目標

実習目標	到達目標	学習の視点	学習方法
(1) 子どもの成長・発達段階および家族の状況が理解できる	①子どもの身体的成長・発達を把握し評価できる ②子どもの心理・社会的発達を把握し評価できる ③子どもの発達段階の特徴を述べるができる ④子どもの日常生活、基本的生活習慣の自立状況を評価することができる ⑤家族の状況を把握し考察できる	①形態機能的成長発達 ②心理社会面の発達 ③基本的生活の自立状況 ④発達課題 ⑤健康問題を持つ子どもの家族の特徴	Ⅱ－1 Ⅱ－2
(2) 子どもの健康状態が判断できる	①身体的成長・発達を踏まえて健康問題の特徴を述べるができる。 ②子どもに行われる検査・治療を述べるができる ③子どもの健康状態を述べるができる ④子どもの健康問題の回復過程を述べるができる	①身体的成長・発達を踏まえた健康問題の特徴原因、発生の機序 ②検査・治療別看護 ③対象別看護(S/O データ) ④経過別看護	Ⅱ－1 Ⅱ－2 Ⅱ－4
(3) 健康問題や入院が子ども・家族に及ぼす影響を理解できる	①健康問題や入院による子どもの生活状況の変化を述べるができる ②健康問題や入院が家族に与える影響を述べるができる	①入院・健康問題が児に及ぼす影響 ②①が家族に及ぼす影響	Ⅱ－1 Ⅱ－2 Ⅱ－5
(4) 子どもの健康問題に対する援助方法が理解できる	①子どもの発達段階に応じた接し方ができる ②子どもの発達段階に応じて起こりうる危険を予測し、事故防止に努めた援助の必要性を述べるができる ③疾患の再発や悪化の観点から、感染防止の援助を述べるができる ④見学や日々の実践を振り返り、子どもと家族に必要な援助方法を考察できる ⑤家族の心理面を考察し、援助の必要性・方向性を述べるができる ⑥子ども及び家族を通して、継続看護の必要性を述べるができる	①コミュニケーション技術 ②観察技術 ③事故防止、感染予防 ④生活支援技術 ⑤診療の補助技術 ⑥健康診査、保健指導、退院指導 ⑦活用できる社会資源 ⑧子どもの権利 ⑨小児看護における倫理的配慮	Ⅱ－1 Ⅱ－2 Ⅱ－3 Ⅱ－4 Ⅱ－5

※学習方法について…情報収集・コミュニケーション・オリエンテーション等は記録に反映されるものとして割愛

4) 実習展開 (例) 実習施設や時期により展開方法が、異なる場合あり。

日程	実習内容		
1 日目	学内	実習オリエンテーション	学内 OSCE 課題の明確化
2 日目	病棟	病棟オリエンテーション	受け持ち対象者の同意確認、情報収集 援助の見学
3 日目	・ 外来	指導者と共に、病棟の看護計画に沿った援助の実施、看護の方向性立案	
4 日目		指導者と共に、病棟の看護計画に沿った援助の実施 自己の看護計画実施	
5 日目		指導者と共に、病棟の看護計画、一部自己の計画にそって援助の実施、振り返り・評価	
6 日目	学内	ラベルワーク	

5) 学内実習 実習 1 日目

(1) 学内実習のねらい

実習で多く出会う対象の事例を通して、既習知識、技術を臨地でどのように活用するかを学ぶ。また、自己の課題を明確化する。

(2) 学内実習目的

- ①事例の健康問題の解決に必要な看護援助方法が理解できる。
- ②演習を通して、実習に向けての自己課題が理解できる。

(3) タイムスケジュール

時間 (8 時間)	学習内容
9:00～10:00	実習オリエンテーション
10:00～12:30	DVD 事例提示 調べ学習(発達、疾患について)
13:15～16:00	DVD 内容から着目点の抽出ワーク OSCE・リフレクション 自己課題の明確化

学内実習 実習 6 日目 (事後)

(1) 学内実習のねらい

実習で学んだ小児看護の役割を、ラベル (実習記録Ⅱ - 5) で記し、グループワークを実施する。
集めたラベルから小児看護の役割として重要な因子を可視化し、ラベル同士のつながりや関連性を理解しながら、学びを統合する。

(2) 学内実習目的

- ①ラベルワークを通して、小児看護の役割を理解できる。
- ②他者のラベル・意見から、多角的視点で小児看護に対する学びを得ることができる。

(3) タイムスケジュール

時間 (5 時間)	学習内容
9:00～9:30	ラベルワークオリエンテーション
9:30～12:00	ラベルワーク実施
13:00～13:45	ラベルワーク発表 質疑応答

6) 事前学習

- ①乳幼児～学童期にあたる小児の発達および解剖学的視点の見直し
- ②小児の各種バイタルサイン測定方法と留意点
- ③RS ウィルス、パラインフルエンザ、ライノ・エンテロウィルスなど呼吸器系疾患に関与するウィルスについて

7) 実習記録

記 録	枚 数
小児Ⅱ―1 A3 ワークシート	1 枚
小児Ⅱ―2 熱計表とアセスメント	3 枚
小児Ⅱ―3 見学・実施記録	1 枚
小児Ⅱ―4 実習のまとめ	1 枚
小児Ⅱ―5 小児看護の役割(ラベルワーク)	1 枚
小児Ⅱ―6 援助計画用紙	2 枚

実習記録記載時のパソコン使用について・・・

Ⅱ―3、Ⅱ―4に関してはパソコンの使用可。フォーマットに関しては、学生が独自で作成せず、担当教員からデータで預かること。個人情報同様、管理に厳重な注意を払う。厳重な注意・取り扱いに関しては、実習要項巻末参照。

8) 実習上の注意

- (1)病棟実習における受け持ち患者の決定については、原則2名で1ユニットの患児・家族を受け持つこととする。
(グループの学生数が奇数の場合は、その限りではない。) また、対象以外の検査・処置の見学をおこなう場合がある。
事前に情報を得ていた場合は、事前学習をおこない臨むこと。臨時で見学をさせていただく場合は、事後で必ず学びを深めること。
- (2)援助の実施は段階的に行う。①指導者および教員(指導者が望ましい)の実施を見学、②指導者および教員と一緒に学生が実施、③学生が見守りの元で実施。とする。
- (3)報告・連絡・相談について、都度こまめにおこなう。また、患児・家族からの質問や相談に対しては、学生の身であることから返答出来かねることをお伝えし、その旨を指導者へ相談すること。学生の独断で安易に即答することや回答をしないこと。
- (4)安全面に配慮し、十分な対策が取られている場合であっても、必ず自身の目で確認する事や、指導者・家族、時には患児へ直接、依頼・指導をおこなうこと。
- (5)小児病棟では、小児に多い感染症が原因となって入院に至っているケースが存在する。よって、感染予防・対策に対する意識を十分に持ち、実践すること。加えて、実習中は病院組織の一員であることを忘れず、常に意識すること。
- (6)健康管理チェック表は、指定日から1日に2回の測定をおこない、自身の体調管理をしっかりとおこなうこと。測定値は、指定の書式に記載し、実習担当教員のチェックを毎朝受けること。体調にわずかでも変化が生じている場合は、独断で出席せず待機し、担当教員または学校の指示に従い行動すること。

9) カンファレンス

カンファレンスは、毎日 30 分実施する。時刻の設定は、指導者の都合を最優先とし、学生が調整をおこなう。資料の準備形態は、施設によって異なる為、学内初日の施設オリエンテーションにて詳細を伝達する。

10) ファイル提出について

(1) 臨地実習最終日、実習ファイルを実習の成果物として、実習病院または教員へ提出する。その際、以下の点を遵守する。

- ・ファイルに挟む記録は、小児Ⅱ―1～小児Ⅱ―5 までを順番に綴じ、各セクションにインデックスを貼付する。事前学習は、最後に綴じる。
- ・学内最終日にラベルワークを実施するため、ラベルワークで使用するⅡ―5 はコピーをしておき、本書は提出、コピーをラベルワークで使用できるよう準備しておく。
- ・実習評価表(青の A4用紙)にボールペンで自己評価を記入しておく。

11) 評価について

- ・評価対象者については、必要出席日数(実習時間の 2/3 以上を出席した者とする)。
- ・実習最終日の午後(指導者の都合により前後あり)に、学生が自己評価をした実習評価表をもとに、教員が実習指導者と協議したうえで、最終評価をおこなう。

小児看護学Ⅱ実習ルーブリック表

実習目標 (評価規準)	キーワード	評価資料	S	A	B	C
（１）子どもの成長・発達段階が評価できる ※理論スケールの代表例 【身体的側面】 乳児：ローレル指数 幼児：カウプ指数 学童：BMI DENMVERⅡ 発達評価 パーセンタイル値 【心理・社会面】 乳幼：ボウルビィ 幼児～学童：ピアジェ 家族システム理論	・理論/スケールの使用 ・正常・逸脱の評価	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－４ 小児Ⅱ－５	対象患児の把握にあたり、複数のスケールや理論を偏りなく用いており、発達の正常・逸脱を十分評価できている。またその評価から、今後の発達について考えることができている。（15点）	対象患児の把握にあたり、スケールや理論を適切に用いており、発達の正常・逸脱を評価できている。（12点）	対象患児の把握にあたり、スケールや理論を用いているが、一部正確性・妥当性に欠ける。用いたスケール・理論で発達の正常・逸脱を部分的に評価できている。（10点）	対象患児の把握にあたり、スケールや理論を用いておらず、発達評価の正常・逸脱の評価ができない。（7点）
（２）子どもの発達段階に応じた関わりを持つことができる	・発達に応じたコミュニケーション ・危険及びリスクの考慮	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－３ 小児Ⅱ－４ コミュニケーション 援助計画	患児の発達を考慮し適切なコミュニケーションが取れる。また、疾患や発達から予測される様々な危険及びリスクに対し、根拠立てしつつ予防・防止に向けた声掛け等の必要性を考慮し、実施することができる。（10点）	患児の発達を考慮したコミュニケーションが取れる。また、疾患や発達から予測される様々な危険及びリスクを考慮することができる。（8点）	患児の発達は理解しているが、コミュニケーションに結び付いていないことがある。疾患や発達から予測される様々な危険及びリスクを部分的に考慮することができる。（6点）	患児とのコミュニケーションにおいて、発達を考慮する姿勢が見られず、疾患・発達段階から予測される様々な危険及びリスクの考慮が不十分である。（4点）
（３）子どもの健康状態が把握できる	・疾患、病期の把握 ・検査、治療の理解	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－４	対象の疾患、病期を的確に把握している。また、行われている検査・治療の内容と必要性を理解し、さらに副作用やリスクを考慮した観察・評価等に繋げることができる。（15点）	対象の疾患、病期を大方把握し、行われている検査・治療の内容と必要性を述べられている。（12点）	対象の疾患・病期を把握する努力はあるが不十分な点もある。また行われている検査・治療の内容や必要性について部分的に述べることができる。（10点）	対象の疾患・病期の把握が困難で、それに伴う検査・治療の内容や必要性の理解、意味づけができていない。（7点）
（４）子どもの健康問題に対する援助・介入方法が理解できる	患児の状態改善に必要な看護および優先順位の検討 ・患児の症状（対症別看護） ・検査治療別看護 発案時点の問題解決 ・患児の病期（経過別看護） 個別性の考慮 ・患児の発達、嗜好の反映	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－３ 小児Ⅱ－４ 援助計画	患児の状態改善に向け、看護の必要性および優先順位を判断することができる。その際、個別性を考慮し、発案時点の問題解決にとどまらず、リスクや予後についても検討がなされている。（15点）	患児の状態改善に向け、看護の必要性および優先順位を判断することができる。その際、発案時点の問題解決に個別性加えながら検討できる。（12点）	患児の状態改善に向け、看護の必要性および優先順位を判断することができる。その際、発案時点の問題解決に必要な援助を検討できるが、個別性の配慮にまでは至っていない。（10点）	患児の状態改善に向け、看護の必要性および優先順位を判断することができない。個別性を考慮と、発案時点の問題解決に必要なとされる看護、その両方を検討することが困難である。（7点）
（５）健康問題を持つ患児の家族とコミュニケーションがとれる	・家族への配慮 ・コミュニケーション	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－３ コミュニケーション	家族の不安や思いに寄り添い精神面への配慮だけでなく、入院生活における活動と休息について配慮しながらコミュニケーションを図り、疲労やストレスを労うことができる。（10点）	家族の不安や思いに寄り添うなど精神面への配慮についてその必要性を明らかにしたうえで、コミュニケーションを図ることができる。（8点）	家族の不安や思いに寄り添うなど精神面への配慮・必要性については明確にされているが、コミュニケーションに反映されていない部分がある。（6点）	家族に対する様々な配慮やその必要性が明確にされておらず、家族とのコミュニケーションが乏しい。（4点）
（6）健康問題や入院が家族に及ぼす影響と、援助・介入方法が理解できる	・個別性の考慮 ・退院に向けた支援	小児Ⅱ－１ 小児Ⅱ－２ 小児Ⅱ－３ 小児Ⅱ－４ 小児Ⅱ－５ 援助計画	家族の状況、思いを考慮しつつ、退院に向けた支援が必要かどうかの検討ができる。支援の方向性が明確であり、個別性を考慮しつつ、対象の理解を促すための工夫・配慮がなされている。（15点）	家族の状況、思いを考慮しつつ、退院に向けた支援が必要かどうか検討することができる。その内容は、個別性が考慮されており、支援の方向性も妥当であると言える。（12点）	家族の状況、思いを考慮しつつ、退院に向けた支援が必要かどうか検討ことができ、その方向性は妥当であると言える。しかし、内容において個別性を考慮することはできていない。（10点）	家族の状況、思いから個別性を考慮しつつ、退院に向けた支援の必要性を判断、および検討することが困難である。（7点）

小児看護学Ⅱ実習 評価表

学籍番号 氏名

実習施設（病棟）

実習期間（臨地） 令和 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）
（学内）

出席時間数 欠席時間数

総括的評価

学習活動における評価基準項目			自己評価（中間）	自己評価（最終）	指導者・教員評価
実習目標	1	子どもの成長・発達段階が評価できる。	S・A・B・C	S・A・B・C	S（15）・A（12）・B（10）・C（5）
	2	子どもの発達段階に応じた関わりを持つことができる	S・A・B・C	S・A・B・C	S（10）・A（8）・B（6）・C（4）
	3	子どもの健康状態が把握できる	S・A・B・C	S・A・B・C	S（15）・A（12）・B（10）・C（5）
	4	子どもの健康問題に対する援助・介入方法が理解できる	S・A・B・C	S・A・B・C	S（15）・A（12）・B（10）・C（5）
	5	健康問題を持つ患児の家族とコミュニケーションがとれる	S・A・B・C	S・A・B・C	S（10）・A（8）・B（6）・C（4）
	6	健康問題や入院が家族に及ぼす影響と、援助・介入方法が理解できる	S・A・B・C	S・A・B・C	S（15）・A（12）・B（10）・C（5）
態度	①期日までに必要な学習ができる		S・A・B・C	S・A・B・C	S（3）・A（2）・B（1）・C（0）
	②看護学生として責任感をもって行動できる		S・A・B・C	S・A・B・C	S（3）・A（2）・B（1）・C（0）
	③生命の尊厳と権利を尊重し、主体的に対象との関わりができる		S・A・B・C	S・A・B・C	S（3）・A（2）・B（1）・C（0）
	④グループ内での役割を果たし協同できる		S・A・B・C	S・A・B・C	S（3）・A（2）・B（1）・C（0）
	⑤助言に対する内省行動ができ、自己の課題を明確にできる		S・A・B・C	S・A・B・C	S（3）・A（2）・B（1）・C（0）
学生自己評価（態度評価基準点の3分の1）				点／5点	
学習活動における評価（指導者・教員）					点／95点
実習成績 秀：とても優れてできる：90点以上 優：優れてできる：89点～80点 良：できる：79点～70点 可：不十分さを残すができる：69点～60点 不可：できない：60点未満					合計点 点／100点
					実習成績
実習指導者			担当教員		

氏名：

受け持ち児（　　　　　）歳児の形態機能的成長発達・心理社会面の発達【事前学習】

入院前の日常生活動作の自立状況	入院後の日常生活動作の変化
-----------------	---------------

家族背景・キーパーソン	入院後の家族への影響
-------------	------------

【健康問題が子どもに及ぼす社会性の影響について】 ①身体的成長・発達をふまえた影響 ②健康問題の経過（病期に応じた検査・治療・処置による影響）をふまえた影響 【健康問題が家族に及ぼす影響について（家族機能の変化や、キーパーソンへの影響）】	【入院に対する思い・疾患・治療の理解】 【受け持ち児】 【家族（キーパーソン）】
---	---

【受け持ち児と家族に必要な看護の方向性】

【受け持ち児と家族に必要な看護について】 子どもへの看護（接し方もふまえて）	家族（キーパーソン）への看護（退院後の生活もふまえた）
--	-----------------------------

受け持ち児（　　　　　）歳の情報　性別　　　身長　　　体重

スケール・指数からの評価

1. 診断名：

2. 主訴：

3. 現病歴（発病～受け持ちまで）

4. 既往歴

5. 予防接種歴

6. 治療方針

7. 受け持ち児に行われる検査（結果、正常・異常の判断含む）

8. 受け持ち児に行われる治療・処置

【疾患の理解】

実施または見学した項目

時間	学生の関わり・コミュニケーション	児や家族の反応（S・O）	評価・考察（A）		
【本日の実習目標に対するふりかえり】					
【指導者・教員のコメント】			日付	指導者	教員
			サイン		

小児Ⅱ－4 実習のまとめ

学生氏名

①子どもの成長と発達段階および家族の状況が理解できる。

②子どもの健康状態が判断できる。

③健康問題や入院が子どもおよび家族に与える影響について理解できる。

④健康問題を持つ子どもと家族への援助方法が理解できる。

・実習を通しての学びと課題

小児Ⅱ－5 小児看護の役割

学生氏名

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

小児看護の役割は（ ）である。

その意味は

学生氏名

技術項目

必要物品

対象者の環境への視点

感染予防の視点

必要なコミュニケーション

安全・安楽の視点

対象の状況

ボディメカニクスの視点

看護過程

目標(援助の結果期待する反応) 結果 (Sデータ・Oデータで記入をする)

評価(目標に対する評価)

自分の技術のふりかえり

* 倫理に関しては、全体に意識して記載します。(小児看護領域でとくに留意すべき子どもの権利と必要な看護行為(日本看護協会1999年)参照)